

ロバート・チャートフ+アーウィン・ウィンクラー・プロダクション 笑特作

HOLLYWOOD

RYAN O'NEAL
BURT REYNOLDS
TATUM O'NEAL
PETER BOGDANOVICH'S
NICKELODEON



ライアン・オニール

ハリウッドも青春、彼等も

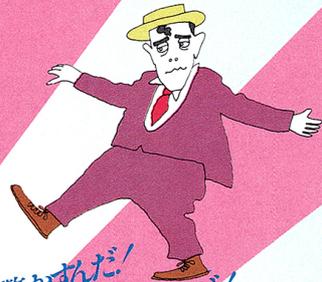
観る方も
作る方もみんな
活動写真に
夢中だった。
そうして

ハリウッドが
生まれた!



バート・レイノルズ

若い日の
ロイドもいた。
J・フォードもいた。
グリフィスもいた。
キートンもいた。



観客を驚かすんだ!
それが活動写真だ!

総天然色
PANAVISION®
TECHNICOLOR®



タイタム・オニール



ジーン・ピッチコック

ニッケルodeon

製作アーウィン・ウィンクラー-&ロバート・チャートフ◆監督ピーター・ボグダノビッチ◆撮影ラスロコボックス◆パナビジョン◆アメリカ映画◆提供ヘラルドエース◆配給・日本ヘラルド映画



ニッケルオデオン それは夢を売る 5セント劇場!

映画が発明されたのは、今から100年ほど昔フランスはパリでさうです。スクリーンの中で動いた蒸気機関車は当時のパリっ子のドギモを抜きました。それから映画は私たちに数え切れないくらい多くの夢を与えてきてくれました。

これからご紹介するこの映画は、その映画創世紀のアメリカで、俗にいう「活動屋」たちがどのようにして映画を愛し、命をかけて映画と取り組んできたかをコミカルに描いた映画バカの映画バカによる映画ファンのみなさんのための素晴らしい映画なのです。

映画創世紀の頃のアメリカは、それは大変だったさうです。当時は「ニッケルオデオン」(5セントで映画を見る小劇場)の全盛期で、映画の特許を主張する大会社とそれを取り巻く弱小プロダクションとの抗争が激しく、「仁義なき戦い」が日夜展開されていたということです。

でもそれは、双方とも「面白い映画をより多くの人達に見てもらおう」という心意気からにはありません。

そういう当時の有様を、そのままにタイム・スリップさせたのが「ラスト・ショー」「ペーパー・ムーン」の監督ピーター・ボグダノヴィッチです。主演はライアン・オニール、ティタム・オニール親子、そしてバート・レイノルズ。

彼らが最大

ブライアン・キース扮する製作者が映画の輝かしい未来を語るのをきいて胸が熱くなった。

の敬愛をこめて
あなたに贈ります。この
名作を心の底でしっかりと受
け止めて下さい。



映画は楽しい! 作るのはもっと楽しい…… ハズだった。

「ストーリーと監督がいなくなった。撮影不可能!」

「ハリガン、君が行け。何とかなる。」

時は1910年頃のシカゴ。若きドジ弁護士レオ・ハリガンは、ひよんなことからキネグラフ社というマイナーな映画製作会社の社主H・H・コップ氏と出会い、いきなり無理難題を押しつけられた。

キネグラフ社は他の弱小映画会社同様、メジャーのパテント社と抗争を繰り返しながら、秘かに彼らの手

映画の栄光そのものに捧げられたこの映画のエンディングの感動は、これはもう実際に映画を見て味わっていただくしかない。

大林宣彦氏
(映画監督)

ニッケルオデオン PETER BOGDANOVICH'S NICKELODEON



の届かない地カリフォルニアで映画の製作に励んでいた。ところがカリフォルニア班の監督がストーリーを持って逃亡してしまったのである。事の経緯をよくのみこめぬまま、レオはカリフォルニアはクカモンガという町へ向かう汽車に乗せられるはめになった。

ここは地のはてクカモンガ。ホテルを兼ねたバーが一軒あるだけ。出迎えの人もなく、そとバーのドアを開けると、いたいた不満だらけのスタッフ、キャストの面々。

「監督?俺が?でも一体何をすればいいんだ」というレオにカメラマンがそとと耳うち。「大丈夫。いいですか。これがカメラであれが役者。演技をさせて、『カット』っていうだけ。ね簡単でしょ」



すすめられるままにメガホンをとったレオ。監督稼業も板につき、次第に意欲的に作品をこなすようになっていった。しかし彼の気持ちとはうらはらに、都会のニッケルオデオンでかかる作品はズタズタに編集されたヒドイ代物。「面白ければ何でもよい」というコップと決裂したレオは自力で「混血児」の製作にとりかかったのだが世の中そんなにうまくいかない。風のたよりによりマイナー出身の大監督D・W・グリ

（後の『国民の創生』）のプレミア試写会の開催を聞きつけたレオは複雑な心境で会場へ。レオがそこで見たものは映画の中の映画であり、満員の会場は、「映画の誕生」に酔っていた。「負けるものか!」レオは心に誓った。

